特集 人を繋ぐ 家を継ぐ

空き家バンク de みとよ暮らし

住まなくなった家を貸したい売りたいという人と、それを借りたい買いたいという人をマッチングさせる「空き家バンク」制度。数々のマッチングが、大切な思い出の詰まった家を、次の思い出をつくる家へと継いでいます。そして、時には新旧の持ち主をも繋ぎ、温かいやりとりが生まれています。

「空き家バンク」制度と「空き家バンク」に自分の家を登録した人や実際にそこからみとよ暮らしの拠点を見つけた人の声を紹介します。

表紙

今月の市民力

一日の思い出を胸に、満足そうな笑顔で船に乗り、別れを惜しむ来島者を紙テープで温かく見送るのは、「むかし粟島ぱーい・粟島がぁる」の皆さん。島の人で結成され、瀬戸芸の会期中、来島者への道案内や自転車の貸し出し、一日３回にわたるトイレの掃除や作品の管理など、粟島の瀬戸芸を陰で支えました。「来島者ともっともっと話をしたかった」と１カ月を振り返る皆さん。船が見えなくなるまで手を振る姿には、少しでも粟島を感じて帰ってもらおうと、おもてなしの心が溢れていました。

広報 みとよ 平成25年 12月号 目次 contents

3 特集 人を繋ぐ 家を継ぐ ～空き家バンク de みとよ暮らし～

10 Mʼs Information みとよくらしのおしらせ①
秋の叙勲等 ／ 民生委員・児童委員選任 ／ がん検診お知らせ ／ 農業委員会委員選挙人名簿登載申請 ／ 税務課からのお知らせ

12 みとよHOT ほっとNEWS(ホットニュース)

14 Mʼs Information みとよくらしのおしらせ②
国民年金のお知らせ ／ 年末年始業務のお知らせ

16 Mʼs 深読みひろば
じんけん探訪 ／ 文化財を訪ねて ／ 少年育成センター

18 12月のお知らせ
募集 ／ 相談 ／ 講座・教室 ／ イベント ／ 納税のお知らせ ／ マリンウェーブ情報 ／ 国際交流協会　など

21 保健・相談

22 ここ笑み通信 ～子育てするなら三豊が一番！～
放課後児童クラブ ／ ウィズの会 ／ Mʼs Smile ふぉとぎゃらりぃ ／ 乳幼児健診　など

24 みとよ写真帳 ／ 編集後記

三豊市の人口 ※平成25年11月1日現在 （　）内は前月比

世帯数 23,207世帯(+26)　総人口 66,806人(+1)　男 31,841人(-2)　女 34,965人(+3)　※香川県人口移動調査による

Mのみちしるべ ～市ホームページには情報が満載～

http://www.city.mitoyo.lg.jp/

三豊市 検索

旬の情報をメールマガジンで

「みとよのほんまもん」は抽選プレゼント付きのメールマガジンです。登録すると三豊市の旬の情報をお送りするほか、年数回、抽選でみとよのほんまもんをプレゼントします。登録の方法は市ホームページの三豊市知名度向上プロジェクト「みとよのほんまもん」をクリック。また何かのイベントで登録キャンペーンをしていたら、即登録を！旬な話題でみとよを満喫し、あなたもみとよ通に!!

トップページ右下にある「三豊市知名度向上プロジェクト　みとよのほんまもん」のバナーをクリック！

新持ち主 × 元持ち主

泉　秋彦さん(60)・トモ子さん(55)
犬のマリンちゃん(6)
豊中町在住

図子　速禧さん(72)
八代栄さん(70)
豊中町在住

娘を嫁に出すような気持ちです

「うちは6人家族で、孫も大きくなってきたので、新しい家を建てることにしました。

この家は、今まで住みやすいようにリフォームしたり、手をかけて大切にしてきたものなので、壊すのもなんとなく惜しくて物置きにしてもよいのでと、そのままにしていました。そんなとき、広報で空き家バンクという制度を知り、一度説明を聞いてみようと市に寄ってみました。分かりやすく説明してくれ、どのようにインターネットに情報が掲載されるか、イメージができて、すぐに登録前の物件確認を申し込みました。

私たちの場合は手入れをしたかったこともあり、鍵を持っていたのですが、空き家バンクに登録してからというもの、たくさんの人が見に来てくれ、いろんな出会いがありました。その中で、海や山が近いところがよかったから、静かなところがよかったからなどという声をよく聞きました。映画館や美術館は遠いけれど、ここには自然がいっぱいあって、それを求めている方もたくさんいることを感じましたね。

とにかくいい人に巡り合って、喜んで使ってもらえたらと思っていました。最終的に、遠くから来られた泉さんというほんとに温かい人に巡りあえてよかったです。少し話していても初めてとは思えないくらい親しみやすくて、もしかしたらこの人にもらってもらうために、これまでがあったんじゃないかと思うくらいです。

近所の人も「図子さんが引っ越してから寂しくなってたけど、また明かりが灯ってにぎやかになってええわ」と言ってくれ、嬉しかったです。

次の人のために、毎日窓を開けに行ったり、ババの木を切って手入れをし、ちょっとでも気持ちよく使ってもらおうとしている図子さんご夫婦。「娘を嫁に出すような気持ちです。ちょっとでもさっぱりと、ちょっとでも綺麗にして渡し、そのあとは干渉しすぎず、遠からず近からず、困ったことがあればもちろんお力になれればと思っています」

水、空気の良さ、そして人の温かさが決め手

「定年を機に愛知県のマンションを手放し、ゆったりとした生活を送ろうと、妻のふるさとの香川県で暮らすことを決めました。空き家バンクの制度を知り、インターネットで空き家を探しました。

三豊市の空き家バンクのホームページには、移住した人のコメントが載っていたのでなんだか『自分だけではないんだ～』と心強かったです。

ここに決めたのは、持ち主の図子さんや地域の人の温かさ、水、空気の良さに心が動かされたからです。

この家にするかどうかを見に来た時に、道に迷ってしまったのですが、ご近所の人が『うちに車を置いて一緒についてき～』と言って、歩いて案内してくれました。見ず知らずの私たちにこんなに丁寧に接してくれるなんて、と三豊の人の優しさに感動しました。また、図子さんは、私たちが来るまで、草むしりや部屋の換気、掃除までして、丁寧に家を管理してくれていたり、引越しのときに疲れているだろうからと、うどんやてんぷらをお昼に作ってくれ、身内がしてくれるような、自然でさりげない優しさに、本当にありがたく思っています。

豊かさって人との巡り合いだと思っています。こんな温かな皆さんに出会えて、すごく幸せで心強いです。

ここでは、庭で野菜を作ったり木を使ったモノづくりをしたり、いろいろチャレンジして、「生きている」ということをしっかり感じられる人間味のある生活をしていきたいと思います。

そして少しでも、この土地に根付いて、アンパンマンが自分の顔を分ける精神で、地域のために私ができる恩返しをしていけたらいいですね。

私の同僚にも空き家に住みたいと考える人が多くいます。これから空き家バンクという事業はもっと大きくなるのではないかと思います。愛知の同僚にも教えてあげたいですね」

空き家バンクde

空き家で暮らす

空き家バンクを使って、「空き家で暮らす」という選択をし、市外から移住してきた皆さんの**みとよ暮らし**の様子をインタビューしました。

これからずっとここでいたい

矢野　智規さん(29)
金子恵理子さん(29)
詫間町在住

大阪生まれの矢野さんと、東京生まれの金子さんは、東京のシェアハウスで出会い、現在婚約中です。

「自然が豊かで、自転車で生活ができる、そしてすぐに入居ができるところを探していました。たまたま空き家を買ったり借りたりできる『空き家バンク』というシステムがあることを知り、インターネットで調べました。市のホームページも見やすくて、すぐに住めるか住めないかが掲載されていたのがよかったですね。

今の家は賃貸ですが、自由にハンガーかけを設置したり、釘を刺したりと、家主さんが、『プチリフォームしてもよい』と言ってくれているのでオリジナルのものになり、愛着が湧きます。特にお気に入りは、キッチンとリビング。居心地がとてもいいです。

二人とも香川県に来るのは初めてでしたが、電車から瀬戸内海の島々を見て『ここで住みたい！』と思いました。プライベートビーチを見つけたり、観光本には載っていないキラキラした海を独り占めできるのは、至福の時間です。

また、ここに居る人も好き。スーパーでよく見かける光景に、お母さんがいつも優しい声で子どもに話しかけていて、ゆったりとした時間の流れの中に住んでいると、お母さんもきっと心に余裕ができるんだろうなぁ、と感じます。地域の人も洗濯機や扇風機、野菜や玄米もくれたりして、いい人ばかりで本当に感謝しています。

ここに来て『これからずっとここでいたい』と思うようになりました」と笑顔で話す二人。

矢野さんは、板や流木でマグネットや携帯置きなどを作る「どんぐりの人」という雑貨店を、金子さんは家の隣にプレハブを建てて、毎日食べても体にいい「一日のごほうび屋さん」という菓子屋を作りたいと思っています。

「彼は、東京ではメガネをかけてパソコンを打っているイメージでしたが(笑)、今では網を買ってきて蜂やハエと戦ったり、家を直してくれる姿は、たくましく頼もしいです。毎日、自転車に乗って仕事に行きながら『来てよかったね～』と二人で話しています。少し悩みがあっても、家の前の海を見て『自分ってちっちゃいな～』と多少のことは吹っ飛ばせいもあるのでしょうか。こちらに来て幸せを感じる瞬間が多いように思います」

瀬戸内で主人の面影を感じて

多田　徳恵さん(84)
詫間町在住

多田さんは徳島県生まれで岐阜県から引っ越してきて、一年になります。

「香川県は主人と初めて出会った場所で、結婚当初住んでいたところです。主人が亡くなってから、瀬戸内には主人の活躍した、においや面影が残っているような気がして、ここに来ました。最初の出会いは、私が看護学校の実習のときに患者として入院していたとき。その4年後にお互いの地元の徳島駅で偶然再会したことが結婚につながりました。ほんとドラマのような筋書きですよ、橋田壽賀子さんに言ってあげたいくらい（笑）。

市の空き家バンクは、移住者向けの専門雑誌に香川の相談センターの電話番号が掲載されていて相談し、教えてもらいました。平屋で新しい家でしたし、下見に来た時に、山の紅葉がとても美しかったことや、家の前に海が広がっていてとても癒されたので、この家に決めました。息子2人が建築士で耐震診断もしていますが『大丈夫』と言ってくれて安心です。リフォームで私仕様にして快適に生活しています。

ここに来てから、カルチャースクールで出会った人が図書館で読み聞かせをする紙芝居をつくりたいと話していて、幼少からずっと絵が好きで本格的に習っていたこともあり、ぜひ絵を描かせてほしいと申し出ました。昔、看護師もしていたので応急処置や擦り傷の手当てなどでなにか地域の人の役に立てたらと思っています」

犬がのびのびと飼えるところに住みたかった

花房　武志さん(38)
陽子さん(39)
豊中町在住

「夫の仕事の都合で香川に来ることになり住む場所を調べていたところ、インターネットで市の空き家バンクを見つけました。条件は犬が大好きなので、犬がのびのびと飼えるところ。ネットで見たときに家の概観の写真も入っていて、だいたいの検討が付けやすかったし、登録するとそこの住所も教えてくれるので、自分の都合の良い時に自分で見られたこともよかったです。40歳未満の人にリフォームの補助があったことも選んだ理由のひとつです。

住んでみて、ゆめタウンも近くにあるし、高速も近いし、道も綺麗で生活に不便はありません。

ここの家のお気に入りはなんといってもこの広さ。そして自然もとても気持ちよいですね。

田植えの景色や稲穂が金色に輝く光景、新鮮な空気、見とれるほどの真っ赤な夕日・・・。犬の散歩をしていてもゆっくり流れる時間はリフレッシュでき、ホッとします。

自分も地域にできることをしようと、犬の保護活動をしています。野良犬にトイレのしつけをしたり、人間が触っても、怖がったり噛んだりしないように訓練をすることが主な活動です。人に譲れるような飼い犬にして、欲しい人に譲ることで、少しでも幸せな犬が増えたらいいなぁ、と思います」

空き家バンクde

空き家を売る 空き家を貸す

空き家バンクに大切な家を登録した皆さんの声を紹介します。

古い家なので登録できるか心配でした

（70代女性）

主人が亡くなってなかなか一人で管理が難しく、家の周りに草もたくさん生えていましたし、お仏壇もありました。市に相談したところ、物件登録ができることが分かり、今は借りてくれる人も見つかり、とても助かっています。

思い入れのある家なので壊せなかった

（70代男性）

地元を離れて長いですが、両親が住んでいた家なのでやはり思い入れもあり、手放すまでの決断がなかなかできませんでした。関東ふるさと会で、空き家バンクという制度を知り空き家バンクに登録することで、家を借りてくれるという人が見つかり、よかったです。この制度は、過疎化対策にもつながりいいですね。

家の売買は初めて

（70代女性）

空き家をどうしようかと思っていたところ、広報で空き家バンクの制度を知り、電話で市に相談し、登録しました。家屋売買は初めてで要領も得なかったのですが、代わりに市や不動産業者が、いろいろ対応してくれ、登録してよかったと思います。話が出てからはスムーズに進み、若夫婦の心ある人に住み続けていただけることになり、感謝しています。

大切に使ってくれる人に巡り会えたら

（70代女性）

登録をしてからたくさんの人が家を見に来てくれ、関西にいても不動産屋が随時その状況を報告してくれ、大変助かっています。皆さん、空き家バンクのインターネットを見て、来られているようですね。主人と結婚し嫁ぎ、この家で住んでいました。いざ手放すとなると寂しいですが、3代4代と続いたしっかり建てられた家は誇りです。なによりもこの家を大切に使ってくれる方に巡り合えたら嬉しいですね。

大切な家なので、だれかに使ってほしかった

岸本照子さん（80）

空き家になった家があり、売ろうと思っていたところ、広報で空き家バンクの制度があることを知り、市に連絡をしてみました。

大切な家なので壊すのも惜しく、だれか必要な人に使ってもらえたらと思っていました。

住んでくれた人がとてもいい人で、気持ちよく住んでくれ、こんな幸せなことないんじゃないかと思います。時々行って話をしたりしていますよ。家が繋いでくれたご縁だと思っています。

三豊市の空き家バンク事情

市では、空き家を貸したい売りたいという空き家所有者と空き家を借りたい買いたいという空き家利用希望者の双方の橋渡しを行う「空き家バンク」制度を平成24年度から展開し、市への移住定住を応援しています。

40歳未満の人は、見つけた空き家を手直しする場合や購入する場合に一定の要件を満たせば、補助金が利用できます。

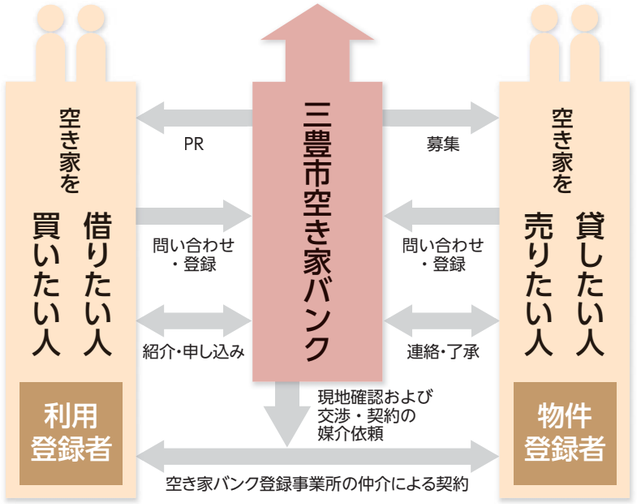
現在、空き家の登録は65件、うち賃貸16件、売買物件48件、どちらでもよい1件という状況です。

また空き家を利用したいと登録している人は194件にも上っており、10代から80代まで幅広い層が登録しています。まだまだ、空き家の登録が間に合っていないのが現状です。

あなたの住まなくなった家を登録しませんか？

空き家バンク制度では、空き家の情報発信を行い、三豊市への移住・定住を応援しています。

市内にある空き家を募集しています。住まなくなった家をお持ちの人は、ご連絡ください。



空き家バンク物件登録の流れ

①三豊市役所へ連絡
- ●空き家バンクについて説明します。
- ●空き家物件の所在地や、持ち主の連絡先等をお伺いします。

②市役所職員による物件確認
- ●市役所職員による外観確認を行います。安全面等で問題がないようであれば、次の手順に進みます。
- ●持ち主へ、市から連絡します。

③担当不動産業者の選定
- ●空き家バンクに登録した場合に、担当になる不動産業者を選んでもらいます。基本的には空き家バンク登録事業所の中から選定をお願いしています。それ以外についてはお問い合わせください。

④物件所有者・不動産業者・市役所職員の３者による物件確認
- ●持ち主と不動産業者、市職員の３者により物件確認を行います。この際、室内や設備等を確認し、登録できる物件かどうか判断します。
- ●この時に、間取図・不動産情報について分かるもの（固定資産税の納税通知書など）をお持ちください。

⑤物件登録申請書の提出
- ●物件確認の際、登録申請書の記入について説明します。物件の詳細や希望価格等を記入して、市まで提出ください。

⑥審査・登録
- ●登録申請書を確認審査のうえ、「登録通知書」を持ち主へ送付し、空き家バンクに物件登録します。

⑦インターネットでの情報発信開始
- ●物件情報をインターネット専用サイト「みとよ暮らし手帳」で情報発信を始めます。

市内に空き家をお持ちの人へ

まずは電話かメールでお気軽にご相談ください。

登録するとこのように物件情報が「みとよ暮らし手帳」で紹介されます。

三豊市への移住・定住ポータルサイト。みとよ暮らし手帳

住まなくなった家をお持ちの皆さん。眠った家にもう一度命を吹き込んでみませんか。

こんなに古い家でも大丈夫？家財道具は撤去しなければならないの？など、気になることがあれば悩まず、まずはご相談ください。その家は誰かにとっては必要な家かもしれません。

▼問い合わせ
田園都市推進課
☎73・3011